

7つのゼロに加えて

新たな取り組み

エプロンゼロへの挑戦



【食事委員会】

加藤沙妃里 稲葉元延 矢澤真由美

特養のマンネリ化から脱出しよう！

エプロンをなぜ外そうと思ったのか、それは「特養のマンネリ化」に気づいたからでした。

特養のフロアでは、食事する1時間も前からご利用者がエプロンを着けて座っている場面をよく見かけます。また、食べこぼしもないのに、病院や他施設からずっとエプロンを着けて食べているので…という理由から惰性でエプロンを着けてしまっている方もいます。介護の現場では、ほんのちょっとでもこぼすと、すぐにエプロンを着けてしまいがちです。

長年、介護士をしているとこんな状況に違和感がなくなり、理由もなく当たり前になっているのが現実です。

自分がされたくないことは やめよう！

最近、駒場苑ではファミレスなどに出かける機会が増えてきました。外食できるのは嬉しいと思いますが、そんな時でも食事用エプロンを着けられて食べるとしたら…。ご利用者の立場にたって考えてみると恥ずかしいし、できれば着けたくないですね。自分がされたくない事をしないのが7つのゼロのテーマの一つなら、エプロンもゼロを目指すべき、と再認識する意味で「エプロンゼロ」を掲げました。



一般的な介護用エプロン

全介助の方からエプロンはずそう！

まずエプロンを外すために基準のマニュアルを作成しました。その後、マニュアルにそって、各フロアで話し合い理解を求めて、全介助者の方のエプロンを取りました。なぜなら、食事全介助の方がこぼすのは私達介助者の技術次第だからです。それでも技術以外の理由でどうしても少しこぼしてしまう方には、畳んだフェイスタオル等を使用すればエプロンはいりません。

おしゃれなエプロンで気分よく！

ご自分で食べられる方でどうしてもこぼされる方にはおしゃれなエプロンを使用します。例えば、男性では甚平タイプ、女性ではワンピースタイプをボランティアの協力で作成しました。見た目は普段着とほとんど変わらないタイプです。おしゃれなエプロンを使用したところ、介護用エプロンが嫌で外そうとしていた方も上着だと思い外そうとすることがなくなりました。



めぐろボランティア・区民活動センターのご紹介で、「よせ木グループ」の方々が、私達のニーズに応じて素敵なエプロンを手作りして下さいました。おしゃれで使いやすく着心地も良いので利用者さんにも大好評です。

これからも頑張ります！

ただ、まだ一部自力摂取されていて、どうしても食べこぼしてしまう方は介護用エプロンをまだ使用しています。こぼさないために椅子や机の高さの調整やお皿の配置など配慮していますが、昨年度から始めた事なので現在はまだまだ試行錯誤している段階です。しかし介護する側としては、エプロン洗いの枚数が減って、その分ご利用者の個別対応に専念する時間が増えたことは嬉しいことです。また、エプロンゼロを始めるきっかけとなった「介護用エプロンをするのが当たり前」という職員の意識は変わったと思います。今後は更に「当たり前の生活・その人らしさの実現」に向け食事委員一同、発信していきたいと思っております！